

記者発表資料	
平成30年6月29日	
担当課 (担当)	長寿社会課 (医療介護連携係 橋本渉)
電 話	0857-54-1970 (鳥取県東部医師会館内)

「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏」で ACP の啓発活動を展開します ～生き方を支援する終活支援ノート「わたしの心づもり」を作成～

本市では、地域包括ケアシステムの構築に向けた施策の一つとして、「在宅医療・介護連携の推進」に取り組んでおり、その一環として、この度「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏」の1市5町が連携して、終活支援ノート『わたしの心づもり』を作成しました。

【目 的】

人生の最終段階における医療・介護についてあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うことの必要性を理解していただき、*ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を実践する活動につなげていくことを目的としています。



【作成部数】 5千部(平成30年度分)

民間提案事業として全国的に事例を展開中＝広告料収入で作成(自治体の費用負担なし)

第2章 もしもの時は

～わたしの心づもり①～ (例:元気なとき)

要介護状態や病気で、自分の思いや考えが伝えられなくなった時に備えて、パンフレット(さいごまで自分らしく豊かな人生のためのわたしの心づもり)をよく読んでから、考えてみましょう。繰り返し話し合ってみましょう。また、あなた1人で考えるのではなく、ぜひご家族などと一緒に話し合ってからご記入してください。(同じページが3回分あります。)

わたしの思いや考え 記入日 年 月 日

●もし生きることができなくなる時期が来るとしたら、あなたにとって大切な事はどんなことですか？

家族や友人と過ごすこと 仕事や社会的な役割を続けること
 身の周りのことが自分でできること できる限りの治療が受けられること
 痛みや苦しみが少なく過ごせること 家族の負担にならないこと
 ひとりの時間が持てること 経済的なこと
 趣味の時間を持つこと その他

●あなたのご自身の病名や命を知られていますか？

病名も命も知りたい 病名のみ知りたい 知りたくない
 その他(具体的にお願いします)

●もし、思いが伝わっていきないうつ病や認知症等があれば以下に書いてみましょう。そして、次の機会に医療従事者に尋ねてみましょう。

●自分の思いや考えを伝えられなくなった時に、どのような治療を望みますか？

可能な限り延命治療を受けたい 延命治療を希望しない
 苦痛を少なくすることを重視する その他

●食べられなくなった時に、どうしてほしいですか？

胃や腸からチューブで流動食を入れてほしい
 点滴で水分を補ってほしい 人工的な栄養や水分の補給はしなくていい
 その他

【本案件の特徴】

- 複数の市町が共同(連携中枢都市圏)した取り組みは全国的に珍しい取り組みです。
- 繰り返し話し合った気持ちが残せるよう、もしもの時の医療や介護のページを3回分作成しました。
- ACP啓発パンフレット(さいごまで自分らしく 豊かな人生のためのわたしたちの心づもり)と併せた活用で、啓発効果を高めます。

【活用の方法】

- 保健師等による健康づくりや介護予防などの出前講座
- 東部地区在宅医療介護連携推進協議会の住民啓発学習会 等でACPの啓発と併せて配布します。

※ACP(Advance Care Planning)とは：人生の最終段階の医療やケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセスのこと。